

森里海連環学『海』へ参加しました。

4月29日(月)・4月30日(火)

今年度も、津和野高校にお世話頂き、森里海連環学の第1回『海』に参加しました。森里海連環学では、この益田地域の森と高津川流域、そして益田海岸の関連を題材に学びます。自然と人の共生を現地に出向き生物の営みを観察することで実感することにあります。津和野高校、吉賀高校、本校の3校が合同で勉強会をします。今年度も第1回目の春には海、2回目の夏には川、そして3回目の秋には山での現地学習が計画されています。今回は、海での学習です。3校の約20名の希望生徒の参加がありました。京都大学名誉教授で舞根森里海研究所長でおられる田中克先生から魚の採集方法から分析方法そして、生態系の現状を具体例を交えながら2日間通じて学びました。



小浜海岸にて、田中先生から説明を聞きました。



実際に網を引いて採集しました。



NPO法人アンダнте21の方々にもお世話になりました。



網の中身を仕分けして、益高に持ち帰りました。



耳石による分析や魚の調査法を学習しました。



益高実験室で実際に耳石を取り出しました。



2日目は、津和野高校で講義でした。



2時間半の講義と質疑でノートはびっしりです。

参加した生徒の感想の一部を紹介します。

1年 保田君

1日目には、実際に網を引きました。ただゆっくりと網を引いたのですが波打ち際にヒラメの稚魚やウシノシタ、クサフグなど魚が潜んでいることが解り驚きました。午後からの耳石の分析では、本当に石のような構造体を取り出せて、顕微鏡で日輪が見えた時は感激でした。2日目では、地球上の森が元々は80%程度であったものが、1700年頃には50%、現在では30%まで減少していることを学びました。森がなくなると海も生物が生存できなくなり、深い関わりがあることを知りました。また、漁師の方が、植林の活動をしていることを学びました。自分たちでも簡単なことから森や海を守っていけると感じました。

2年 佐々木君

去年に続いて2回目の参加でした。今年の採集では、昨年よりも採集量が少なく残念でしたが、稚魚たちは天候次第で生活場所を移動していることを改めて学ぶことができました。自分が作成したプレパラートでは、明確ではなかったのですが、耳石の日輪を見ることができ、分析法の一端を実際に体験できて嬉しかったです。

2日目の講義では、自然は環境と生物が目に見えない糸でびっしりと結びつながっており、持続可能な自然や社会であるためには、常に環境に目をやる必要があることを学びました。生物の保全は、長い時間をかけてたゆまぬ取組をすることが大切であると学びました。田中先生、アンダンテの皆さん2日間本当にありがとうございました。

さて、在校生の皆さん。2回目は、夏に高津川で学ぶ予定です。現地で・直接実物に触れて、専門家の先生方から学びませんか。日程が決まり次第募集をします。ふるって参加しましょう。